

分類番号

920.27

テーマ別調べ方ガイド



20 世紀中国恋愛文学

について調べる



★ 関連キーワード

- 自由恋愛
- 五四新文化運動
- 文化大革命
- 張愛玲

「Paste (はすて)」とは？

ぱっと分かって、すっと頭に入る、テーマ別調べ方ガイドです。みなさんの学習をサポートする、総合図書館ラーニング・サポーター（LS）による作成です。レポート作成の際などにお役立てください

1. イントロダクション

1-1. 20世紀中国文学における「恋愛」とは？

「恋愛」という近代的な価値観が中国において見出されたのは20世紀初頭のことである。日本経由で中国へと輸入されたこの「恋愛」(ただし異性愛を規範とする)は、父権制支配の抑圧下であり、自由意思に基づく交際(=「自由恋愛」)を認められていなかった青年たちの間で広く受容されることとなる。1910年代半ばに始まる一連の新文化運動は自己解放を願うこうした青年たちの主導するものであった。

20年代に入ると、彼ら青年たちを熱狂させた「自由恋愛」に材を取った文学作品が雨後の筍のごとく量産されていく。20年代の恋愛様相を確認するうえで、馮沅君「旅行」(1923)は格好のテキストとなりうる。本作は愛し合う男女の束の間の小旅行を描いた短編なのだが、新思想としての「恋愛」がいかに崇高なものであるかが声高に語られている。

ただ、「至上の愛」は必ずしも幸せをもたらすものとは限らなかった。「至上の愛」の行き着く先を描いた作品として、「旅行」の二年後に書かれた魯迅「傷逝」(1925)を見てみよう。この作品では、「わたしはわたし自身のものです、彼らの誰も私に干渉する権利はありません」と宣言して愛する男性を選んだヒロインが描かれている。しかし愛情よりも事業を優先しようとする恋人を前にした時、事業の妨げとなることを憚った彼女は、ひっそりと死にゆくほかなかった。恋愛とは、崇高な感情であったと同時に、その身を滅ぼす危険性をも孕んだ感情であったのだ。時代はやや下るが、郁達夫「彼女は弱い女の子」(1932)も恋愛という感情に現を抜かした結果、職を失い家庭の破綻を招いてしまった男女を描いている。

さて、代表的なテキストを取り上げながら30年代前半までの恋愛について概観してきた。種々の様相を見せながらも、一貫して創作の主要な題材となりえた恋愛であったが、30年代半ばからの日中全面戦争に伴い、そのテーマは後景化することとなる。1941年作の丁玲「霞村にいた時」を見てみよう。この物語は、日本軍の慰安婦とされていたヒロイン貞貞が恋愛関係にあった男性夏大宝からの求婚を振り切り、共産党員である女性に導かれる形で党の革命根拠地である延安を目指す、という筋書きである。先述したような崇高な恋愛は影を潜め、「革命」(「救国」)に乗り越えられるべきものとして配置されているのは注目に値する。その背景には、毛沢東の「延安文芸座談会での講話」(1942)に明文化される共産党の文芸政策があった。この講話は、青年少女たちに愛よりも尊い価値観(=党、国家)が存在することを提示したのである。

こうして日中戦争期における文学は、恋愛などという個人的感情を描いた文学から国家に資する文学へと急速な変容を見せる。さらにこの文学様式は1949年の人民共和国建国以後にも引き継がれていくのだが、50年代に一世を風靡した長編小説、楊沫の「青春の歌」(1958)に建国直後の「恋愛」のあり方を求めてみよう。本作は思想を異にする夫を振り切り、共産党員である江華の愛を受け入れて革命へとともに邁進するヒロイン林道静の成長を描く。この作品が興味深いのは、愛情を捧げるべき対象が「思想を同じくする革命戦士」として具現化されている点である。愛の告白をする江華に対し、彼女は次のように考える。「長きにわたって尊敬してきた同志が、自分の夫になろうとしているのだろうか。だが彼女が深く愛し、夢に見続けてきた人は彼ではないのだ……」しかし彼女は自らの迷いを振り払い、こう結論づける。「江華のようなボルシェビキの同志こそ、彼女が深く愛するに値する。以前から自分を深く愛してくれていたこの人を拒む理由なんてあるものか」ここでもロマンティックな感情としての恋愛は見当たらない。男女の関係とは、もはや人民の至上命題である革命を促進させる起爆剤としか用をなさなくなってしまったのだ。そして革命を偏重するこの傾向は1966年に始まる文化大革命で極点に達し、恋愛を描くことは極端に政治化した時

代の下で禁圧されることとなる。

10年にわたる文化大革命の波が過ぎ去ると、人民共和国に再び恋愛を描いた文学が登場する。劉心武「愛情の位置」(1978)はその嚆矢といえる作品だろう。革命と恋愛のどちらを選択すべきかと苦悩するヒロインを描いた作品だが、作者はその両者を追求すべきだという解答を読者に示している。文化大革命終結からわずか二年、革命と恋愛はいまだ分ちがたく結びついていたのだ。ただ、こうして創作世界に舞い戻ってきた恋愛は、またも崇高さを付与されることとなる。張潔「愛、この忘れがたきもの」(1979)を見てみよう。本作は「真実の愛」に至上の価値を見出し、外在的な圧力に屈した「愛情のない結婚」などすまないと誓うヒロインの物語であるが、「愛情の位置」に見るような革命と恋愛の両立はもはや目指されるべき終着点ではなくなっていることに注意したい。文化大革命終結直後の恋愛は、ひとまず20年代に見られるような「至上の感情」へと回帰してきたのである。

しかし、「至高の愛」を追求した文化大革命直後の文学は次なる難局を迎えることとなる。それは、20年代に描かれた恋愛文学も直面せざるをえなかったように、「至高の愛」に対する幻滅であった。ロマンティックな恋愛が愛する男女を必ずしも幸福へ導くとは限らなかったのだ。「革命」と「恋愛」が切り離され、後者に絶対的な価値が見出された後、文化大革命終結後に描かれる「恋愛」はさらなる変遷をたどることとなるのである。

以上、20世紀中国文学における恋愛の主要な様相を時代ごとに追ってきた。ただ、すべての作品が上述した恋愛文学史の流れを汲むとは限らない、ということ最後に述べておきたい。先に、「日中戦争期における文学は、恋愛などという個人的感情を描いた文学から国家に資する文学へと急速な変容を見せたことを述べた。だが戦時下にあっても、救国や革命という「大きな物語」を描かない作品も同時に生み出され、銃後の読者に受け入れられていたこともまた確かなのだ。例えば、40年代に日本占領下の上海で活躍した張愛玲。占領下という特殊な環境に身を置きながら、戦争や国家、思想などではなく、男女の恋愛や家庭の問題を容赦ない筆致で描き出した作家として、40年代当時に絶大な人気を誇った。その彼女のデビュー作である「沉香屑 第一炉香」(1942)は、自分の愛する男性が碌でもない人間であり、彼と結婚しても不幸になると分かっているながらも、愛に身を捧げることを決心するヒロインを描いた墮落物語だ。彼を愛するということが誰かに押し付けられたものではなく、「自分で望んだものなのだ」と言い聞かせることで、どこまでも荒波に立ち向かおうとするヒロインを描いてみせた。ここに張愛玲の真骨頂がある。だからこそ、張愛玲は現在でも中国語圏を代表する作家となりえているのだろう。

* 本イントロダクション作成に際しては、濱田麻矢「愛という名のもとに：二〇世紀中国文学の少女像」『中國文學報』88冊,2016年,57-78頁における議論を参考にした。なお、本パスファインダーでは作品タイトルを太字かつ「」で示し、作品掲載誌を『』で示す。

1-2. 学習するにあたってのポイント

まず何よりも実際に作品に触れてみることを勧めたい。創作背景などといった外枠を固める作業はひとまず後回しで構わない。創作背景などをあらかじめ理解したうえで作品を読み進めてしまうことは、作品に対する「読み」を狭めてしまうことにもなりかねないからだ。幸いにも日本では20世紀中国文学の数多くが翻訳されている。心に残る作品を見つけた後に、以下に示す文学史の参考書を確認しながら創作背景等について理解を深めていけばよいだろう。

ただその際に注意したいのは、文学史とはあくまでも「他者」によって構築されたものである、ということ

だ。「他者」の記述のみを鵜呑みにするのではなく、自身の「読み」を大切にしながら学習を進めてほしい。

1-3. 一般向けに書かれた資料・読み物

■ 現代中国文化探検：四つの都市の物語 / 藤井省三著

北京・上海・香港・台北という四つの都市を往来しながら 20 世紀中国語圏における文化史を読み解いたもの。著者である藤井省三氏が中国文学研究者であることから、各都市の文学史について多く記述が割かれている。また、各章冒頭に著者選りすぐりの探索スポットが地図とともに示されており、ガイドマップとしても非常に魅力的な一冊となっている。

【書誌 ID= 2003353019】総合図-A 棟 3 階 文庫・新書 089||IS||R644

2. 学習用資料

「1-2. 学習するにあたってのポイント」でも述べたように、まずは作品に当たることが文学研究において何よりも重要となる。「2. 学習用資料」では、まず前章において代表的なテキストとして取り上げた作品群を収めた翻訳集を紹介する。次に 20 世紀中国(恋愛)文学を読み解くうえで参考となる文学史叙述本を掲げる。最後に「2-3. その他」では、20 世紀中国恋愛文学を研究する上で参照すべき論文、利用可能な検索媒体等を紹介する。

2-1. 翻訳集

■ 中国現代文学珠玉選 / 丸山昇監修

全 3 冊。1920 年代から 40 年代までの中国現代文学の翻訳集。「小説 1」では魯迅や郁達夫ら重量級作家の作品、「小説 2」では重量級作家とは言えないまでも民国期中国を代表する作家の作品、「小説 3」では民国期の女性作家の作品を収録している。全章で中国現代文学の重要作品(恋愛作品も含む)を網羅しているだけでなく各作家のプロフィール等も収録しているため、作家事典として活用することもできるだろう。

【書誌 ID= 2003944653(小説 1, 2)】外国図-4 階開架 928||273||1, 928||273||2

【書誌 ID=2003945639(小説 3)】外国図-4 階開架 928||273||3

■ 中国が愛を知ったころ：張愛玲短篇選 / 張愛玲著；濱田麻矢訳

上述の張愛玲「沈香屑 第一炉香」を収録している。張愛玲作品はその独特で華麗な文体ゆえに、日本語で読むことのできる作品は限られていたのだが、本書は張愛玲世界を日本語で存分に味わうことができる数少ない翻訳集の一つである。なお表題の「中国が愛を知ったころ」は、民国期の青年たちにとって憧憬の対象であった「自由恋愛」が実は陥穽となりえたことをアイロニカルに描いてみせた作品である。

【書誌 ID= 2004440224】総合図-A 棟 4 階 学習用図書 923.7||CHO

2-2. 20 世紀中国(恋愛)文学史

■ 中国語圏文学史 / 藤井省三著

20 世紀の間に「中国語圏の人々の情念と論理とがどのようにして形成されてきたか、文学が中国人や香港人、台湾人の情念と論理をどのように集約し表現しそして再生産してきたか」を本書で描き出したいと著者が述べるように、文学を通して垣間見える人々の「生」が語られていく。本書のタイトルである「中国語圏文学」とは、東アジアの都市を主要な舞台とした文学全般を指す新たな枠組みである。また本書は「中国語圏文学史年表」(PDF 版、<http://www.utp.or.jp/news/n20982.html>)を附しているだけでなく、映画などについても広くコラムの形で紹介している。本書一冊で十分に中国語圏の文学史を把握することができるだろう。

【書誌 ID= 2004220160】 総合図-A 棟 4 階 学習用図書 920.27||FUJ

■ 近代中国と「恋愛」の発見：西洋の衝撃と日中文学交流 / 張競著

近現代中国文学がいかんして西洋式の「恋愛」を受容するに至ったか、日本近代文学との比較も絡めながら論じられていく。特に第 7 章以降は民国期の個別の恋愛作品を取り上げて考察を加えており、中国恋愛文学論としての側面も併せ持つ。20 世紀中国恋愛文学を学ぶ上で欠かすことのできない名著と言えるだろう。

【書誌 ID= 2003149358】 総合図-A 棟 4 階 学習用図書 920.27||CHO

■ オンライン中国 20 世紀文学辞典索引 (http://www.lang.osaka-u.ac.jp/~s_aono/zjcidian/)

大阪大学言語文化研究科青野繁治名誉教授が中心となって作成したオンライン版中国 20 世紀文学辞典。作家名のピンイン検索だけでなくジャンル(流派、所属結社等)検索も可能であり、またそのいずれにも丁寧な説明が施されている。

2-3. その他(専門書・学術論文・論文検索媒体等)

■ 三枝裕美「新时期文学における愛の諸相」『中国文学報』46 冊, 1993 年, 99-133 頁

イントロダクションで一部言及した新时期文学(文化大革命終結後から 10 年間の文学。上述の作品で言えば、張潔「愛、この忘れがたきもの」など)に描かれた愛情の様相について検討した論文。文化大革命終結後、恋愛文学は多くの作家の手によって描かれることとなった。本論文では、新时期愛情文学それぞれの比較検討を通じ、愛情の描かれ方の変遷をたどってゆく。また、論文末尾には「新时期愛情文学年表」が附されており、文化大革命以降の恋愛文学を研究する人には参考になるだろう。

【ISSN=05780934】【書誌 ID= 3001074946】総合図-自動書庫

【書誌 ID=OJ00071184】電子ジャーナル

■ 濱田麻矢「愛という名のもとに：二〇世紀中国文学の少女像」『中国文学報』88 冊, 2016 年, 57-78 頁

20 世紀中国文学における少女表象について扱った論文。前近代の中国であれば、一定の年齢を迎えた少女たちには「娘」から「嫁」になる道しか与えられていなかったが、女学校という新しい制度は彼女たちのライフコースに新たな方向を示した、と論者は指摘する。女学校で新思想に触れた少女たちは、魯迅「傷逝」にみるヒロインのような「自分の生き方を自分で決める」行為(=「自己決定」)を崇高な信念と考えるようになるのである。本論文では、女性の自己決定に多大な影響を与えた近代的女子教育に着目し、文学作品における少女と恋愛の関係性について読み解いてゆく。

なお、本論文は京都大学学術情報リポジトリ (KURENAI) (<https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/>)でも公開されている。

【書誌 ID=OJ00071184】電子ジャーナル

■ 原典で読む図説中国 20 世紀文学：解説と資料 / 中国文芸研究会編

主に関西圏の研究者、院生を中心に活動する中国文芸研究会による中国 20 世紀文学解説集。90 もの作品に対する紹介が附されているだけでなく図版も充実しているので、手元には是非置いておきたい。大学での講義用テキストと銘打っているだけあって、レポートや卒業論文作成時に非常に重宝するだろう。

【書誌 ID= 2003982007】外国図-4 階開架 920.27||114

■ Airiti Library. 華藝線上圖書館(<https://www.airitilibrary.com/>)

使用言語は中国語だが、https://www.bunsei.co.jp/wp-content/uploads/PDF/AiritiLibrary_guide.pdf に詳細な利用方法が日本語で紹介されている。台湾や中国の雑誌論文、学位論文、会議論文などを数多く収集しており、中国語圏の大学の修士論文も検索可能である。

3. レポート・論文執筆用資料

ここまで 20 世紀中国文学を研究するにあたって参照すべきテキスト、文学史等を掲げてきた。最後にレポート、論文を執筆するにあたって、参考となりうるものを示しておきたい。

レポート・論文の書き方、学び方、引用・参考文献の書き方

■ 小説の読み方/論文の書き方 / 野間正二著

英米文学を材料にして小説の読み方、論文の書き方を解説する。「語り手から読む」、「歴史から読む」、「少数派の視点から読む」、「謎を手がかりに読む」という四つの(新しくはないが重要な)読みの視点を提示しながら、実際にこれらの視点に沿って、「グレート・ギャツビー」などの作品を読み解いてみせている。

【書誌 ID= 2004211986】総合図-A 棟 4 階 学習用図書 901.3||NOM

総合図-A 棟 2 階 アカデミック・スキル・コーナー 901.3||NOM

■ 理系のための文章術入門：作文の初歩から、レポート、論文、プレゼン資料の書き方まで / 西出利一著

「理系のための」とあるが、わかりやすい文章を書くための基礎を押さえるうえでは文系にとっても有益な書と言えるだろう。特に「主述の一致」などについては、当然のことながら今一度確認する必要があるのではないかと。本書はそうした「当たり前」についても注意喚起を促してくれる。

【書誌 ID= 2004369347】総合図-A 棟 2 階 アカデミック・スキル・コーナー 407||NIS

理工学図-東館 1F キャリア支援図書 407||NIS

本文中で紹介している図書・雑誌について

図書名・雑誌名の後ろに「書誌 ID」(10桁の数字)の記載があるものは大阪大学で所蔵しています。この10桁の数字で大阪大学 OPAC(蔵書検索システム)が検索できます。

